

プラスチックと共存する私たち

長野県上田染谷丘高校1年 3組 氏名田村志帆

この課題に関わるSDGsの番号



テーマ設定の理由

この前、家族と海に行ったとき昔行った時より浜辺にプラスチックごみが増えたように感じたから。



現状

50年間でプラスチックは約20倍

現在、プラスチックは私たちに身近なものとなっています。

そんなプラスチックの生産は50年間で約20倍にも増えており、その多くはリサイクルされずに海に流れてしまっています。

課題

- ・毎年、世界では5兆枚のビニール袋が使われている
- ・1分間に約100万個のペットボトルが売られている。
- ・私たちが使っているペットボトルの50%は使い捨て

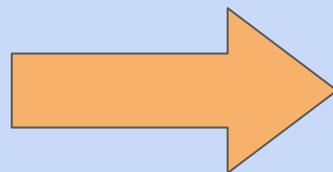
解決に向けた取り組み

海のプラスチック問題を解決するために今、注目されているのが**生分解性プラスチック**です。生分解性プラスチックとはプラスチックが二酸化炭素と水にまで分解されるプラスチックのことです。分子レベルまで分解されるため問題の解決につながると期待されています。

そのほかに私たち個人ができることとして、海や浜辺の清掃をするなどがあります、がここは海なし県。なので**川岸**の掃除をすることも海のゴミを減らすことに繋がります。

10代からの提言

スーパーなどで売られている生鮮食品などはプラスチックのトレーで売られていることが多いです。なのでそのトレーなどを全て生分解性プラスチックにすることでこの問題の解決につながると思います



生分解性プラスチック

感想

このスライドを作る中で自分も知らなかったことを知れたりなどの学びができよかったです。海外のゴミの多い浜辺の映像を見ると日本から来たゴミもありハッとさせられました。プラスチックはとても便利で使いやすく、今現在プラスチックなしの生活というのはほぼ不可能です。だからこそ1人1人の意識が大切なんだなと感じました。